

平成25年度第1回遺跡見学会資料

平成25年5月11日(土)開催

かぞし おおこえ  
加須市大越

なが たけ い せき  
**長竹遺跡(第4次)**

かんじょうもりど  
環状盛土から

床の赤い住居跡発見



長竹遺跡では、利根川の堤防強化工事に先立ち  
平成22年5月から発掘調査を行っています。

平成24年度からは縄文時代後期(約3,500年前)  
～晩期(約3,000年前)の環状盛土の調査を進め、  
膨大な縄文土器・石器とともに耳飾りなどのアク  
セサリーも豊富に出土しています。

今回、環状盛土の中から真っ赤な焼土を床全面  
に敷き詰めた大型の住居跡が見つかりました。ふ  
つうの住まいとは思えないもので、原始の建築史  
をひもとくうえでも貴重な発見です。



主催：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催：埼玉県教育委員会 加須市教育委員会

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所

# 床全面に焼土を敷き詰めた住居跡の発見！

環状盛土の中層から、赤く焼けた土（焼土）が発見されました。この焼土面をていねいに広げていくと、一辺が10m以上の大きな四角形に広がることわかりました。中央には、大きな炉（<sup>いろり</sup>囲炉裏）が設けられていることから、床全面に焼土が敷き詰められた建物の跡とわかりました。壁際に沿って等間隔に並んだ杭と、出入り口と思われる場所に補強のため渡された横木が、炭となって当時のままに残されていました。通常の住まいとは異なる目的で使われていた構造の建物ようです。



焼土を貼った住居跡から、<sup>せきぼう</sup>石棒・<sup>せっけん</sup>石剣・<sup>どっこいし</sup>独鈷石などの石製品、<sup>せきぼう</sup>土偶、<sup>せいまがたま</sup>ヒスイ製勾玉・<sup>どせい みみかざ</sup>土製耳飾りなどの装身具が多く出土しています。これらはムラのお祭りなどで使われた道具と考えられます。



床に焼土を敷き詰めた住居が使われなくなると、上に土が盛られて再び赤い床の住居が造られています。同じ場所に何度も住居が建て続けられているので、この場は特別な空間だったと考えられます。環状盛土は、このような小さな盛土が次々に築かれて形成されたようです。

## 囲炉裏の起源？

四角く焼けた床には、囲炉裏のような丸い炉が造られています。まだあまり焼けていない粘土が、白く残っています。

